

特集

外からみた盛岡、を知る。

—暮らして感じる、まちの魅力とは?—

首都圏から地方へ、移住推進の取り組みが進む近年。盛岡市も、住みやすいまちとして注目されつつあります。そこで、観光面の魅力と少し視点を変えて「暮らすまち」盛岡に関して、外から来た人々の声を拾いました。

【参考データ】 盛岡市・移住・定住促進に係る首都圏等への転出者・転入者を対象としたアンケート調査より

盛岡市に転入した理由 (n = 306)

項目	回答数(人)	割合(%)
1. 盛岡近郊に希望する進学先があったから	18	5.9
2. 盛岡近郊に希望する就職先があったから	37	12.1
3. 会社内の異動のため	117	38.2
4. 家族の転勤や転職のため	50	16.3
5. 結婚のため	20	6.5
6. 配偶者との離別のため	4	1.3
7. 子育て環境・子どもの教育環境が良い地域で生活をしたかったから	8	2.6
8. 実家に戻るため(家族の近くで生活するため)	63	20.6
9. 盛岡で生活をしたかったから	22	7.2
10. 都会生活に疲れたから	19	6.2
11. その他	28	9.2

盛岡に転入する際、課題や不安となったこと (n=306)

項目	回答数(人)	割合(%)
1. 仕事の確保	75	24.5
2. 仕事に関する情報がない	29	9.5
3. 起業や創業が難しい	9	2.9
4. 農業・林業など第1次産業への就業が難しい	1	0.3
5. 収入(給与)が減る	84	27.5
6. 住宅の確保	48	15.7
7. 住宅に関する情報がない	17	5.6
8. 転居資金の工面	208	9.2
9. 家族・パートナーの同意を得ること	17	5.6
10. Uターンに関する情報の入手・相談先の確保	13	4.2
11. 近所付き合いなど、地域への溶け込み	58	19.0
12. 子どもの教育	43	14.1
13. 気候の違い	154	50.3
14. 医療、子育て、介護などに関する支援	51	16.7
15. 買い物が不便	88	28.8
16. 遊ぶ場所が少ない	129	42.2
17. 車などの移動手段の確保	112	36.6
18. 友人や知り合いが少ない(いない)	111	36.3
19. 特になし	31	10.1
20. その他	21	6.9

※1) 盛岡市が首都圏等への転出者・転入者を対象としたアンケート調査結果(2017年度)

※2) 47都道府県と国内1000の市区町村を対象に、認知度や魅力度、イメージなど全84項目からなる「地域ブランド調査2019」。全国の消費者3万1369人から有効回答を得たデータです。

盛岡市では、数年前から移住定住支援の取り組みを進めています。首都圏等からの転入者を対象に行なったアンケート調査(※1)を見ると、盛岡に転入した理由についての質問では、会社内の異動、家族の転勤や転職という回答が54.5%を占めています。必ずしも、移住は積極的な理由ばかりではありませんが、地元全体で転入者をサポートしていくことで、その関わりがまちの魅力となっていく可能性もあります。暮らしやすいまちをつくりあげていくため、建物などのハード面に加え、住民や事業者のホスピタリティなどソフト面の整備も欠かせないものといえます。

一方、東洋経済新聞社による「住みよさ

ランキング2019」をみると、盛岡市は北海道東北編の10位にランクインしています。民間シンクタンク「ブランド総合研究所」の「2019年市町村別魅力度調査」(※2)でも全国46位にあげられ、昨年の90位から急上昇しています。こうした、まちの魅力とは具体的にどんなことなのでしょう？



会話のテンポも暮らしも「気忙しい」がないまち

テレビ岩手アナウンサー

髙 京平さん

盛岡に暮らして15年ほど。新卒で来た当初は、「本当にのんびりしたところだなあ」という印象でした。昼も夜も常に動きっぱなしの都会しか知らない自分にとっては、大きなカルチャーショック。自然の美しさ感動する喜びを知ったのも、こちらに住むようになってからです。建物の高さや間隔、ミニチュアタウンのようなまちが、ほどよく可愛い。東京勤務を経て戻ってきたとき、山を見て故郷を感じるという経験も初めてでした。

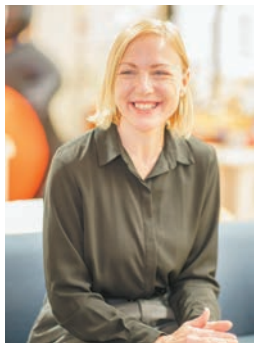
アナウンサーは話すプロと言われます。でも、テレビ番組をつくるにあたって、なくてはならないのは地元の皆さん自身。「おしよす」と言って、前に出ない人が多いですが、皆さんが持って

いる価値に自信を持って欲しいです。

私の大好きな「盛岡さんさ踊り」もその一つです。盛岡川まつりから始まって、統合さんさが生まれ、みんなが参加できるパレードに発展してきました。実はちょっと考えているんです。中央通りのパレードが一つの舞台だとしたら、観客席からもっと見やすくできないかと。トチの木は中央通りのシンボルですが、県庁側に植えかえるのも一つの方法かも?なんて。歴史をつなぎつつ、躍動感をもっと届けるにはどうしたらと、つい熱く考えちゃいます(笑)。盛岡は伝統の価値を知る人が多いまち。さんさに限らず、昔からあるもの、そこから生まれた新しいものもあり、それぞれの良さを感じます。

東京都生まれ。小学生から大学卒業までを千葉県で過ごし、2004年4月、テレビ岩手入社と同時に盛岡へ。その後、数年間東京支社勤務の後、2017年4月から再び盛岡勤務。現在は「ニュースプラス1いわて」の生中継を担当し、県内各地へ取材に向かう。

- 好きな食べ物／じゃじゃ麺、ぶちょうほうまんじゅう
- 好きな場所／中津川沿い



東京よりも落ち着いた雰囲気 自然も素晴らしい

NPO法人善隣館 語学講師

ジョダナ・トンプソンさん

世界各地を訪ねましたが、日本に来たのは初めて。日本の文化に興味を持ち、インターネットで情報を探そうで見つけた盛岡は、東京よりも落ち着いた雰囲気でした。岩手山が常に見える美しい環境は、フッド山に見守られたポートランドと重なるところがあります。自然とまちが共存している感じが気に入りました。どこにでも歩いて行けるし、タクシーも拾いやすく便利です。

実は、全く日本語を知らずに来たのです。最初は、ゴミ出しの予定等、暮らしのルールを理解するのが難しく。バス乗り場では平日と土日の運行スケジュールの違いがわからず少し大変でした。飲食店では、メニューに写真がついているとわかりやす

いですね。だから、回転寿司はオーダーが楽です(笑)。個人商店は英語表記が少ないですが、簡単な日本語のフレーズで質問を投げかけながら、コミュニケーションを図るようにしています。あちこちで英語が飛び交う東京に住んだら、日本語をこんなに覚えなかったかもしれません。

いろいろな国と比べて、お互いに気を配りあっているし、礼儀正しく時間が守られていることも盛岡(日本)の住みやすさの理由かもしれません。盛岡には1年ほど滞在予定。広葉樹に恵まれた盛岡城跡公園は紅葉もきれいですね。まだ冬を経験していませんが、小岩井農場とか雪まつりにも行ってみたいです。

アメリカ・オレゴン州出身。豊かな自然に囲まれたポートランドで育つ。南アフリカ、ザンビア、ナミビア、メキシコ、タイ、アイルランドなど、様々な国での滞在経験を持ち、2019年4月に盛岡へ。語学講師を務めながら、人との関わりを楽しんでいる。

- 好きな食べ物／じゃじゃ麺
- 好きな場所／盛岡八幡宮、報恩寺、回転すし屋



地元企業や生活のリアルな情報 もっと首都圏に届いてほしい

介護福祉用品レンタル会社 営業職

井上 豊さん

移住は、自分から言いました。都会は自分自身のことで精一杯な人も多く、人との関わりも希薄になりつつあります。妻の実家に帰省すると、地元の方々が優しく、何か聞くと親切にどんどん教えてくれるんですよ。子どもが生まれて成長する未来を想像したら、人間味のある温かい環境で暮らしたいと思いました。それが移住の一番大きな理由です。親にも一緒に行くか聞いたら、二つ返事でした。

大変だったのは住居探し。不動産会社を通さない物件も多く、市内では賃貸物件の情報が入りにくいんです。そこで仕事を辞めて、こちらに来てから家を探しました。また、ウェブ検索では

地場企業に辿りつけず、最初は「盛岡に仕事がないのか」と思いました。でも、ハローワークに直接出向くと様々な求人がある。大手の求人情報サイトから情報を得るのが当たり前で首都圏とは全く違うことにびっくりしました。

知人でも田舎に住みたいという人は多いですが、収入面に不安を抱いて留まってしまう潜在層もいます。でも実際、収入額は減っても、家賃や物価、日々かかる生活経費も全然違います。人気のある産婦人科に早朝から並ぶ苦労もなく、保育園も入所しやすい盛岡。首都圏から来ると強く感じるのは地域との関わり

の深さです。リアルな生活情報は移住希望者に届きにくいので、自分自身がパイプ役になればと思います。

- 好きな食べ物／じゃじゃ麺
- 好きな場所／北上川からみる開運橋、空が広い!